

小豆島観光開発地域

土地分類基本調査

高松・草壁・西大寺・寒霞溪

5 万分の 1

国 土 調 査

香 川 県

1 9 7 5

## 序 文

開発地域土地分類基本調査は、開発プロジェクト単位に、地形、表層地質、土壤等の基礎的条件につき科学的かつ総合的にその実態を把握し、この調査結果にもとづき、地域の特性に応じた開発および保全ならびにその利用の高度化に資するために行う基礎調査である。

調査の内容は、地形分類図、表層地質図、土壤図、傾斜区分図、水系・谷密度図、防災図および開発規制図を作成しました。

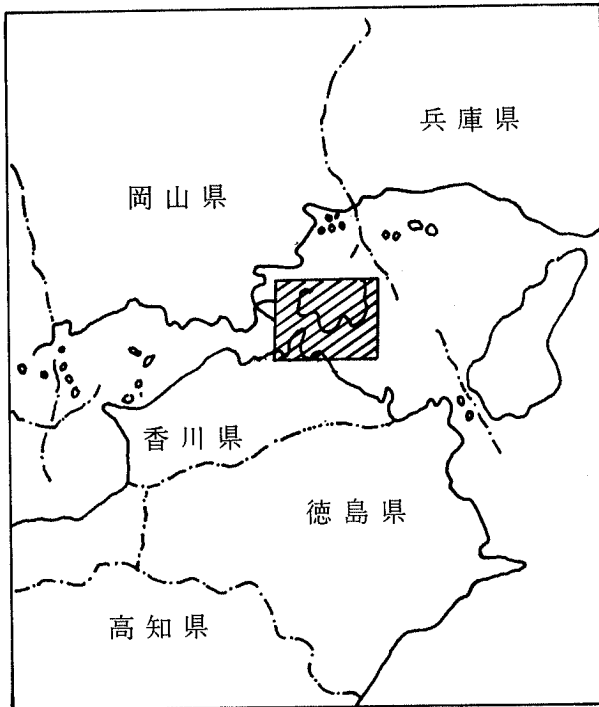
各調査にあたっては、地形分類図および開発関連調査の傾斜区分図、水系・谷密度図、防災図ならびに開発規制図を香川大学教育学部、高桑紘教授、表層地質図を香川大学農学部、斉藤実部長、土壤調査を農林省林業試験場四国支場（林野土壤）および香川県農業試験場（農地土壤）のご協力を得て、企画部でとりまとめたものである。

本調査の実施にあたって、ご協力いただいた上記関係者ならびに企画調整をいただいた国土庁土地局国土調査課に対し深く謝意を表する次第である。

昭和50年 3月

香川県企画部長 平 井 城 一

# 位置図



# 目 次

## 序 文 総 論

I 位置および行政区画 .....	1
II 地域の特性 .....	3
1 地勢, 気象 .....	3
2 人口, 世帯数 .....	
3 交 通 .....	5
4 産 業 .....	5
III 開発の現況と方向 .....	9

## 各 論

I 地形分類 .....	11
1 地形概況 .....	11
2 地形各論 .....	12
II 表層地質 .....	17
1 表層地質概況 .....	17
2 表層地質各論 .....	
III 土 壤 .....	21
1 山地, 丘陵地の土壌 .....	21
2 台地, 低地の土壌 .....	24
IV 傾斜区分 .....	28
V 水系・谷密度 .....	30
VI 防 災 .....	31
VII 開発規制 .....	38

# 総論

## I 位置および行政区画

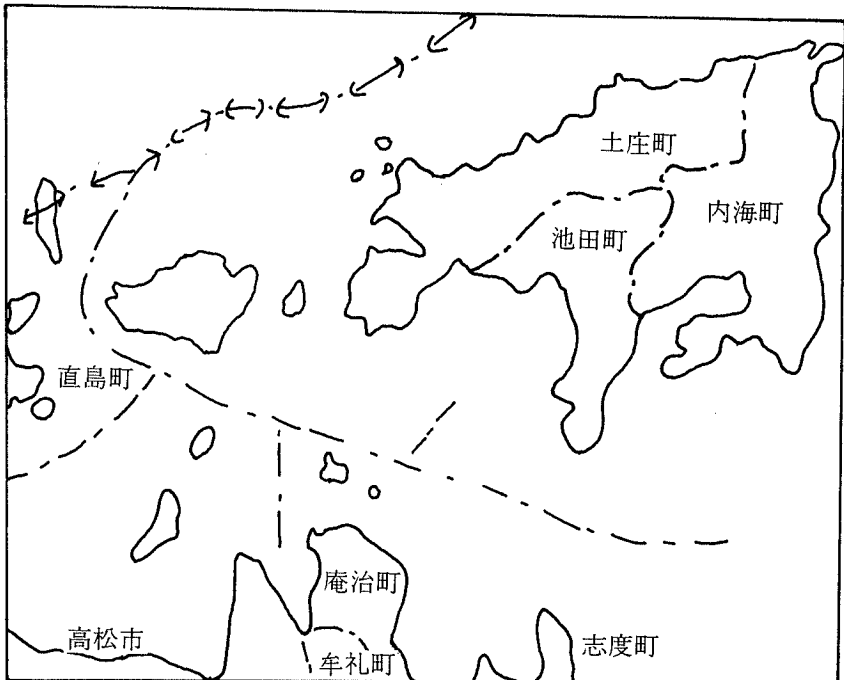
### 1 位置

「高松」、「草壁」、「西大寺」、「寒霞溪」図幅は、香川県の北東部に位置し、経緯度では、東経 $134^{\circ}00' \sim 134^{\circ}30'$ 、北緯 $34^{\circ}20' \sim 34^{\circ}40'$ の範囲である。

### 2 行政区画

本図幅の行政区画は、第1図のとおり、香川県高松市、大川郡志度町、小豆郡内海町、土庄町、池田町、木田郡牟礼町、庵治町、香川郡直島町の1市7町からなっている。

第1図



第1表 函 幅 内 市 町 別 面 積

区 分 市町名	函 幅 内 面 積		市 町 面 積 (B) (km <sup>2</sup> )	A/B×100 (%)
	実数 (A) (km <sup>2</sup> )	構 成 (%)		
高 松 市	29.86	12.7	194.38	2.5
大川郡志度町	7.80	3.3	39.03	20.0
小豆郡内海町	61.60	26.1	61.60	100.0
〃 土庄町	74.41	31.6	74.41	100.0
〃 池田町	34.39	14.6	34.39	100.0
木田郡牟礼町	7.74	3.2	16.51	46.9
〃 庵治町	15.17	6.4	15.17	100.0
香川郡直島町	4.84	2.1	14.12	34.3
計	235.81	100.0	449.61	52.4

資料 市町面積は、建設省国土地理院（昭和48年調査）

函幅内面積は、プラニメーターにより実測。

全国都道府県市区町村別面積調による。

## II 地 域 の 特 性

### 1 地勢、気象

#### (1) 地 勢

本図幅は、香川県の北東部に位置し、南は四国の表玄関高松市、北は瀬戸内海で2番目に大きな島「小豆島」が位置し、瀬戸内海国立公園を背景に有名な観光資源に恵まれた地域である。

図幅内の高松市は、市街地が形成され、政治、経済、文化等の中核的機能を果している。

小豆島は、ほとんど山地で、瀬戸内海の最高峰星ヶ城山(817m)をもち、奇峰の多い山岳地形で、周囲はリアス式海岸特有の美しい曲線を描いている。

地質は、花崗岩であって、その大部分は領家花崗岩に属する。

#### (2) 気 象

本図幅の気候は、温暖寡雨の瀬戸内式気候で、年平均気温は、15.8℃と比較的高く、降雨量は1,490mmである。ただ、春から初夏にかけて多く発生する瀬戸内海特有の濃霧は本土と島しょ部との交通輸送を途絶させるなど住民生活に支障をきたしている。

小豆島(土庄町)における昭和47年の気象概況は次のとおりである。

第2表 気 象 概 況

月別 区分	年 平 均 (年合計)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月別最高気温	20.0℃	11.4	10.1	13.5	18.2	22.3	25.9	30.0	31.7	26.8	22.1	16.4	11.5
月別最低気温	11.5℃	3.1	2.5	4.3	8.5	13.8	16.8	21.6	22.6	18.6	13.4	8.8	3.6
月別平均気温	15.8℃	7.3	6.3	9.0	13.4	18.0	21.4	25.8	27.2	22.7	17.7	12.6	7.6
月別降雨量	1,490mm	76	122	65	98	117	137	143	161	353	87	68	63
月別降雨日数	185日	14	18	14	17	15	18	16	15	21	15	11	11

資料 香川県統計年鑑(昭和49年刊行)による。

### 2 人口、世帯数

本図幅の人口は、昭和40年、300,399人であったが、昭和49年では345,367人とな



り、約15%の増加を示している。これは、高松市が約20.5%を増加しているのに対し、他の町においては減少の傾向にあり、特に、小豆郡池田町は減少の傾向が著しく、過疎対策緊急措置法の適用地域になっている。

世帯数は、昭和40年、77,021世帯であったが昭和49年では100,992世帯と人口増加の伸びを上廻る増加を示している。これは近年における単身世帯の増加と伝統的な直系家族制度がこわれ、核家族化が進んでいることを示している。

第3表 市町別人口、世帯数

年		昭和40年 国調 (A)	昭和45年 国調 (B)	昭和49年 (C)	指 数	
					B / A	C / A
高 松 市	人 口	243,344	274,367	293,137	112.7	120.5
	世帯数	62,617	78,565	86,018	125.4	137.4
内 海 町	人 口	17,650	16,068	15,619	91.0	88.5
	世帯数	4,692	4,677	4,752	99.7	101.3
土 庄 町	人 口	23,514	22,037	21,715	93.7	92.3
	世帯数	5,980	6,132	6,258	102.5	104.6
池 田 町	人 口	7,926	7,380	7,034	93.1	88.7
	世帯数	1,942	1,944	1,966	100.1	101.2
庵 治 町	人 口	7,965	7,710	7,862	96.8	98.7
	世帯数	1,790	1,892	1,998	111.3	111.6
計	人 口	300,399	327,562	345,367	109.0	115.0
	世帯数	77,021	93,210	100,992	121.0	131.1
香 川 県	人 口	900,845	907,897	945,142	100.8	104.9
	世帯数	220,808	242,568	261,271	109.9	118.3

資料 昭和40、45年は国勢調査による。

昭和49年は香川県常住人口調査による。

### 3 交 通

図幅内の幹線交通は、高松市を中心に放射状に伸びており、地域における産業経済活動および生活基盤の根幹として重要な役割を果たしている。

国道は、国道11号線（徳島市～松山市）、国道30号線（岡山市～高松市）の2路線があり、全て改良、舗装されている。

県道は、主要地方道屋島公園線外一般県道高松港線等があり、主要な地域を結んでいる。

小豆島は、主要地方道内海土庄線外2路線と一般県道福田港神懸線外9路線が各地域を結んでいるが、地形的な制約もあって改良、舗装率はきわめて低い。

鉄道は、高松市を起点に愛媛県宇和島市に至る予讃本線、徳島市に至る高德本線が通っている。

海上交通としては、高松港から国鉄宇高連絡船（宇野～高松）をはじめ阪神、九州を結ぶ大型旅客船、フェリー等が就航している。特に小豆島は、高松市はもちろん岡山市、玉野市および阪神を結ぶフェリー等が就航し、本土との時間的距離を大巾に短縮している。

### 4 産 業

#### (1) 高 松 市

農業は、稲作を中心に野菜、果樹栽培と乳牛、豚、鶏等の畜産が主体で、都市近郊農業を営んでいる。

しかし、近年、他産業の画期的な成長と急激な都市化現象の進行は、生活基盤の縮小、若年労働力を流出させ、零細な農業経営を一層、弱体化させている。

林業は、1戸当たり平均経営面積は0.3haときわめて零細で、農業との兼業林家がほとんどを占め、専業林家はない。

漁業は、漁船漁業、養殖漁業および内水面漁業で、主体は、漁船漁業である。

漁種は、主としてイカナゴ、タコ、イカ、貝である。

養殖漁業については、のり、ハマチが中心で近年順調に伸びている。

工業は、機械金属、食料品、パルプ、家具装飾品および木材木製品等の地場産業がその主体をなし、経済発展に大きな役割を果たしている。

#### (2) 庵 治 町

農業は、果樹（みかん、ぶどう）を中心に、稲作が主体となっている。しかし、

経営規模は零細である。

漁業は、内水面漁業を中心としており、漁種はイカナゴ、エビ、タコ等である。また、当町は、のり養殖業が盛んである。

鉱業は、質、量ともにすぐれた庵治石が産出され、加工品は、墓石、石灯籠、石柱及び門柱の化粧石が多い。

### (3) 小豆島（土庄町、内海町、池田町）

農業は、果樹（みかん）を中心に稲作、たばこ、花卉（電照キク）等が栽培されている。

漁業は、地形上、好漁場に恵まれており、最近、たい、さわら、えびなどの中高級漁が減少し、タコ、イカナゴ等が水揚げされる。このほか、のり、ハマチ養殖等も盛んである。

工業は、内海町において古く文化方政の頃よりはじめられた醤油と戦後飛躍的に伸び生産地として全国第1位を示める佃煮製造が盛んである。

鉱業は、内海町、土庄町において護岸埋立用石材が多く産出され、阪神、和歌山方面へ積み出されている。

観光は、瀬戸内海国立公園「寒霞溪」を中心に奇岩景勝の地として知られており、また、平和のシンボル、オリーブは全国唯一の産地であって別名「オリーブの島」ともいわれている南国情緒豊かな島で、観光資源に恵まれている。

第4表 農業就業人口・農家戸数

年 区分 市町名	昭和35年 (A)		昭和40年		昭和45年 (B)		B/A	
	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数
高松市	人 27,143	戸 14,190	人 22,505	戸 13,434	人 17,034	戸 12,884	% 62.8	% 90.8
内海町	1,891	1,915	1,116	1,622	722	1,389	38.2	72.5
土庄町	3,656	2,934	3,692	2,409	1,914	2,021	52.4	68.9
池田町	2,025	1,377	1,366	1,156	1,151	1,014	56.8	73.6
庵治町	989	605	726	560	489	507	49.4	83.8
計	35,704	21,021	29,405	19,181	21,310	17,815	59.6	84.7
香川県	173,116	89,362	142,911	83,182	115,217	78,961	66.6	88.4

資料 農業就業人口は国勢調査、農家戸数は農林業センサスによる

第5表 土地利用の概況 (昭和45年)

(単位 ha)

区分 市町名	総土地面積 (A)	耕地計 (B)	田	畑	樹園地	山林	耕地率 B/A
高松市	19,438	6,950	5,613	384	954	4,336	% 35.8
内海町	6,160	431	133	164	134	4,923	7.0
土庄町	7,441	976	274	413	288	4,886	13.1
池田町	3,439	367	74	185	108	2,468	10.7
庵治町	1,517	217	128	58	31	782	14.6
計	37,995	8,941	6,222	1,204	1,515	22,395	23.5
香川県	187,101	44,638	32,717	4,417	7,503	91,980	23.9

資料 1970年世界農林業センサスによる。

第6表 農業粗生産額（昭和47年）

（単位 百万円）

区分 市町名	粗生産額	耕 種				畜 産				
		計	うち 米	うち 果樹	うち 野菜	計	うち 乳牛	うち 肉用牛	うち 鶏	うち 豚
高松市	8,383	5,824	3,072	569	1,060	2,554	501	585	793	673
内海町	461	285	31	97	74	176	67	24	56	29
土庄町	1,478	683	116	109	154	794	201	116	87	390
池田町	843	740	29	89	71	103	21	7	32	43
庵治町	261	176	55	33	29	85	—	47	27	11
計	(100.0) 11,426	(67.5) 7,708	(28.9) 3,303	(7.9) 897	(12.1) 1,388	(32.5) 3,712	(6.9) 790	(6.8) 779	(8.7) 995	(10.0) 1,146
香川県	(100.0) 70,663	(61.5) 43,430	(25.7) 18,167	(7.0) 4,954	(13.3) 9,430	(38.4) 27,152	(6.1) 4,329	(7.6) 5,356	(17.4) 12,315	(7.3) 5,147

資料 農業所得統計による。（ ）内の数字は%を示す。

第7表 産業別就業人口（昭和45年）

（単位 人）

区分 市町名	総 数	第1次産業				第2次産業				第3次 産 業
		計	農 業	林 業 狩猟業	漁 業	計	鉱 業	建設業	製造業	
高松市	141,506	18,075	17,034	54	987	38,660	78	10,510	28,072	84,771
内海町	7,884	1,049	722	11	316	3,029	127	574	2,328	3,806
土庄町	11,035	2,485	1,914	46	525	3,249	269	744	2,236	5,301
池田町	3,781	1,275	1,151	14	110	1,111	34	389	688	1,395
庵治町	3,898	974	489	1	484	1,430	126	205	1,099	1,494
計	168,104	23,858	21,310	126	2,422	47,479	634	12,422	34,423	96,767
香川県	486,877	123,270	115,217	472	7,581	145,489	1,418	31,748	112,323	218,118

資料 国勢調査による。

第8表 市町別製造品出荷額等

区分 市町名	事業 所数	従業員数	現金給与額	原材料 使用額等	製造品 出荷額等	付加価値額 (従業者19人 以下は粗付 加価値額)
		人	万円	万円	万円	万円
高松市	2,082	29,797	3,086,671	12,838,653	22,182,043	8,972,150
内海町	132	2,166	200,626	738,472	1,261,961	496,791
土庄町	196	2,151	151,679	526,153	1,067,260	493,778
池田町	142	686	24,060	65,675	169,571	101,231
庵治町	99	1,033	88,925	267,504	464,073	199,194
計	2,651	35,833	3,551,961	14,436,457	25,144,908	10,263,344
香川県	6,775	108,131	9,869,270	54,207,379	84,654,861	29,646,730

資料 昭和48年工業統計調査による。

### III 開発の現況と方向

当図幅は、四国の表玄関都市で本県の政治、経済、文化等の中心都市、高松市と瀬戸内海特有の自然環境に恵まれた小豆島等を有しており、今後、この地域の特性を十分生かしながら地域の振興をはかる必要がある。

1 近年における経済の急激な発展に伴い、都市規模の拡大、都市機能の多様化等によって、人的、物的交流が著しく増大して、市街地およびその周辺部において交通が渋滞している。このため、既設道路の整備拡張、バイパスおよび新路線の建設を推進するとともに、瀬戸大橋架設を軸として、新幹線鉄道、四国横断自動車道および東四国横断自動車道の早期完成を推進する。

また、島しょ部においては、今後、観光需要の増大をふまえて、幹線である主要地方道、一般県道の改良舗装整備を推進する。

2 当図幅は、風光明媚な瀬戸内海国立公園を背景に豊かな自然と伝統的な文化的資産の織りなす観光地が散在しているが、最近の観光レクリエーション需要の増大に

対処するため、自然保護に留意しながら、各利用施設の整備を促進する。

3 高松港の整備、拡充および都市施設等の公共用地を計画的に確保するため、環境保全をはかりながら臨海部における土地造成を行う（香西、神在地区外）

4 水資源開発については、小豆島地域の水源を確保するため、多目的殿川ダム（49年度完成）粟地ダム外等の建設を推進する。

各 論



## I 地形分類

### 1 地形概況

本図幅内の地域において高松市北部は本津川・香東川・摺鉢谷川・御坊川・詰田川・春日川・新川・相引川など、木田郡牟礼町は牟礼川など、同郡庵治町は長者川など、大川郡志度町は鴨部川などの流域である。また、小豆郡土庄町の豊島は春日川・春田川など、同町の大深半島は畝木川・桂川・千軒川・柳川など、土庄町南東部は大谷川・皇踏川・伝法川など、同町北部は橋川・桂川・東川など、池田町は蒲生川・池田大川・豊栄川・競川など、内海町西部は別当川・片城川・安田大川など、同町東部は橋川・椎木川・城石川・当浜川・外明新川・森庄川・吉田川などの流域である。

香川県本土と、高松市の女木島・男木島、庵治町の大島・兜島・鎧島・稲毛島・高島、香川郡の直島・小豆島・豊島・小豊島およびその周辺にある多くの小島などとの間にある瀬戸内海は極めて水深が浅く、最も深い所でも50m内外の深度を持つに過ぎない。ところがこの地域で最高の海拔高度を持つ小豆島の星が城山は816.7mの高度を持っているのである。

この地域の山地・丘陵は開析溶岩台地起原であるが、未だ山頂部に平坦面を残す屋島や豊島の檀山、小豆島の皇踏山や同島の三都半島にある段山などは山地でなく溶岩台地として区分した。溶岩は南北方向およびこれに斜交する基盤の割れ目から融出し、集塊岩・凝灰岩類を挟んで基盤を覆ったが、溶岩類は基盤の花崗岩類よりも風化侵食に対する抵抗が強く、溶岩に覆われなかった以前の山頂部が削剝されて低くなり、溶岩に厚く覆われていた以前の谷の部分がかえって高く残った地形の逆転も生じた。海岸線の出入や島の配列の方向はこのような岩石の硬軟の差や基盤の割れ目や断層などに沿う差別侵食の結果によることが多い。山地・丘陵に接して分布する山麓台や海岸段丘起原の小起伏地形は山麓地・上位台地として分類したが平坦面の保存が不良で岩石台地として表現できるような平頂を持ち台地状に基盤が露出した地形はほとんど見られない。

下位台地に相当する砂礫に被覆された低地にある台地の地形は分布範囲が狭く、とくに旧河川堆積物の残存する河岸段丘らしい地形は極端に少ない。

低地の分布は高松平野の臨海地域に広く、三角州や河川の氾濫原が発達し、半島部や島では岩石海岸の湾頭を河川堆積物が埋めた沖積地や波浪が海岸に打ち上げた堆砂

地形の浜堤などがある。また、この地域の海岸には新旧の廃止塩田を含む埋立地が多く各所に分布し、とくに高松平野付近にその面積が広い。

## 2 地形各論

### (1) 山地・丘陵地

山地・丘陵地は起伏量によって区分したが、ここで起伏量とは5万分の1地形図の各辺を20等分して得た方眼中における最高点と最低点の比高である。起伏量400m以上の山地を大起伏山地、200m以上の山地を中起伏山地、200m未満の山地を小起伏山地としたが各山地の境界は谷や鞍部、傾斜急変線などによっている。また、丘陵地(I)は起伏量200m未満100m以上を持つ丘陵地で、丘陵地(II)は起伏量100m未満の丘陵地である。また、この区分は図示するに当って香川県地形分類図(縮尺10万分の1)と大差のないよう調整してある。

大起伏山地は小豆島の最高峰星ヶ城山(816.7m)から西へ三笠山を経て美しの原へ続く山嶺を中心にした一帯で、中起伏山地はその周辺にあるが、とくに南側斜面の侵食が進み傾斜が急峻であって、集塊岩などの差別侵食で寒霞溪では奇巖怪石の絶景を現わしている。山頂は狭い平坦面を残し、山体を刻む谷はV字型に深く掘り込み、谷壁には断崖や露岩が多く、溶岩に覆われている所では溶岩が造崖層を形成する。

小起伏山地や丘陵地には基盤である花崗岩類が山頂まで露出する場合が多く、また山頂部に溶岩や集塊岩などが存在することもある。女木島・男木島及び三都半島南部のように、山頂部に安山岩や玄武岩などの溶岩がかなり厚く存在する場合は侵食谷はあまり発達せず、概して平滑な山腹斜面を持つが、井島・直島・小豆島及び大深半島などのように花崗岩類だけから成り、あるいは五剣山や竜王山のように上に集塊岩などがある花崗岩類の山地・丘陵では小谷が発達し複雑な地形を示している。

庵治半島の五剣山(366.2m)、竜王山(239.3m)では花崗岩山地の山頂部に集塊岩類・凝灰角礫岩類があって急峻な差別侵食地形を現わしているが、女体山(260.3m)西部の花崗岩は良質な石材として名高く多くの採石場が集中し山肌が荒れている。小豆島では東部の海岸に近い地域で花崗岩や玄武岩・安山岩などの採石が行われ景観の悪化している所が少ない。

### (2) 溶岩台地

屋島(292.1m)はわが国の典型的な溶岩台地とされている。緩やかに裾を引く山腹の大部分は花崗岩であって、およそ海拔200m以上の山頂部に南に薄く北に厚く凝灰

岩・集塊岩類を挟んで讃岐岩質安山岩があり、造崖層を形成する。また、山頂平坦面の1部に湖岸堆積物らしい花崗岩や安山岩の細角礫層が残存しており、この平坦面が水の侵食を受けたことがわかる。

豊島の檀山(339.8m)も花崗岩の上に中新統・凝灰角礫岩などを挟んで海拔180m以上に讃岐岩質安山岩をのせる溶岩台地である。とくに山頂部の南端と西端において讃岐岩質安山岩が急崖を成し、この岩石から下の部分は下方ほど傾斜の緩い緩斜面となり、北東斜面の山腹には崖錐状堆積物に覆われた上位台地が認められる。

小豆島においては土庄町の伝法川北岸に臨む皇踏山(393.8m)が讃岐岩質安山岩で覆われた山頂平坦面をよく保存しているので溶岩台地に分類した。

この山地の東方には山頂部が集塊岩類から成る山地が続くが、これは溶岩台地から除いて小起伏山地としてある。皇踏山はおよそ海拔280m以上が讃岐岩質安山岩で、西南端の山頂部は急崖となり、その他の山頂平坦面の周囲は急斜面でかまれている。

山腹の花崗岩の部分は下方ほど緩傾斜で、西部の山麓は小谷で刻まれているが、平坦な山嘴が発達したその一部は山麓地に分類してある。

池田町の三都半島にある段山(207.9m)も溶岩台地としたが、ここでは海拔100m以上が玄武岩で170m以上の部分が山頂平坦面を形成する。玄武岩の下は薄い凝灰岩や礫層を挟んで花崗岩が露出している。また、西部中腹の富士峠以西の山嘴(138m)は海拔100m以上に玄武岩をのせているが、頂部の平坦さが消失し高度も段山本体より1段低くなっているので溶岩台地から除外し丘陵地に分類した。

また、この南方にある白浜山(301.7m)は海拔およそ100m以上が玄武岩であるが、山頂平坦面の面積が狭く台地状を成していないので溶岩台地とはせず小起伏山地に分類した。

### (3) 山麓地と上位台地

山麓地は山地に接し、山地とは傾斜急変線で境され、山麓に連続して展開するかなり開析の進んだなだらかな緩斜面で、その頂部は遠くから眺めると平坦だが、近くで見ると多くの谷に刻まれた緩い波状、または山嘴状の地形である。この地形またはその延長と考えられる丘陵の上に砂礫層が残存している場合は上位台地とした。この地形面は関東地方の多摩丘陵面に対比できるが、本図幅内のこの地形面は隆起波食台起原が大部分を占めると推定している。

屋島周辺の山麓地はあまり開析されていない花崗岩の緩傾斜面が大部分で、その1

部には崖錐堆積物が薄く覆うが、北端の長崎鼻付近の地形は平頂で岩石台地状を成している。

庵治半島の五剣山・竜王山周辺の山麓地も大部分が花崗岩で、開析が進み多くの小谷で刻まれ、五剣山南麓の山麓地縁辺および高德本線の南にある低位の山麓地ではこの地形を開削して宅地造成が進行中で至る所に人工平坦地が散在する。

小田湾東岸に臨む山麓地の凝灰角礫岩などを切る平坦面には志度ゴルフ場が建設されており、女木島北端や男木島南端には花崗岩を基盤とする隆起波食台起原の山麓地がある。

豊島及び小豆島の大深半島などにある山麓地は花崗岩から成り小谷で刻まれているが、小豆島東部ではその範囲が著しく狭い。

上位台地の分布は小豆島西北部と豊島の東北部などにある。しかし、高松南部図幅のように明瞭な河川堆積物が広く分布している地域は認められない。土庄町の馬越岡南方の海拔 180m 付近で標高 171m の三叉路から滝宮の集落へ通ずる道路の南側の小範囲に安山岩類の円礫を含む地層が付着しているが、この露出は比高約 3m、粗砂の偽層を持つ花崗岩質粗砂の多い砂礫層で、礫の粒径は 10cm 以下が多く著しく円化しており、小河川の河口付近に堆積したものらしい。このような堆積物はこの付近一帯に広がる平坦な緩斜面上において他の地点では発見できないが、この緩斜面がある時期の静水面近くで形成された地形面であることを示している。この緩斜面は現在崖錐堆積物状の角礫を含む土砂で被覆され、その下にはあまり固結していない第三紀層の堆積物があり上位台地として分類した。

豊島の家浦岡西方にある花崗岩の山麓において、海拔 60m ~ 80m にも河成亜円礫層が残存する小面積の上位台地がある。礫の粒径は 10cm 以上のものも多く、安山岩・集塊岩・花崗岩などを起原とし、あまり円磨していない。檀山東北部の海拔 220m 以下にある緩斜面は崖錐堆積物状の円磨していない砂礫で覆われるが、その 1 部に河成礫層らしい部分もあるのでこの地形面も上位台地として分類した。

#### (4) 下位台地

本図幅内で厚い砂礫層に覆われた下位台地はほとんど認められない。五剣山西南麓にある下位台地は 1 部に河川堆積物らしい礫層があるが、大部分の台地面は隆起波食台起原らしく、堆積物は花崗岩や集塊岩を母岩とする粗砂の多い薄い砂礫層であり、花崗岩の基盤が露出し風化している所もある。この台地は最高点が海拔 60m くらいで、

西南方へしだいに低下し川原付近で沖積地の低地面に斜交埋没する。また、高德本線の南方にある花崗岩の基盤が露出する低い比高の小丘陵状の地形は下位台地から除外し山麓地の1部として分類してある。

小豆島において下位台地と判定できる地形は土庄町北部の屋形崎以外にはない。屋形崎東部には上位台地の地形面より1段低く、海拔50m～40m付近に小平坦面が付着しているが、この地形面は隆起波食台らしく、花崗岩や集塊岩起原のあまり淘汰されていない粗粒の垂角礫の多い砂礫層が存在する。この地形面を下位台地とした。

三都半島南東部の谷尻・吉の浦付近には海拔40m～50mの花崗岩が露出する台地上に海食礫らしいやや円磨した扁平な礫が分布しており、岩石台地として分類した。また、屋島・庵治・大串その他の半島部や小豆島・豊島・直島・女木島・男木島その他の島々には岩石海岸の波打際に近く海食崖に付着して、現在の海食台より2mほど高く侵食され残った隆起海食台が広く存在するが、1地点における範囲が極めて狭く岩石台地として図上に記載することは困難であるので省略した。

#### (5) 低地

高松付近の低地は香東川・春日川などのつくった古扇状地が沖積世初頭の海進によって浅海の底に沈み、その後の海退によって陸化した海岸平野を諸河川の堆積物が被覆し、新しい沖積地を形成しつつある状態を示している。

高松市付近には深井資料が多く、これによって海岸付近において地表直下の地層が礫を主とする地点を河川の氾濫原、砂・粘土を主とする地点を三角州と仮定して氾濫原と三角州との境界を定めた。

島部における沖積地では河川が短小で勾配が急であり河谷の各所に土石流堆積物が見られ、河川の下流部に三角州と判定できる地域は存在しない。土石流堆積物は岩屑が大雨で土砂とともに谷から押出したもので、とくに集塊岩や角礫凝灰岩などの地質を持つ急傾斜の小谷に多い。また、扇状地は少ないが池田町の大麻山南麓には沖積錐とした方が適切な急斜面の扇状地がある。

また、古文書・古地図などによるとこの地域では有史時代の過去において湾奥部の海岸線は現在よりも内陸側へ入り込んでおり、河川の堆積や人工の埋立によってしだいに海岸線が海側へ進出していることがわかる。

寿永4年(1185年)の源平合戦のころは屋島南方は古高松との間に浅海があり、これを源軍が徒歩して赤牛崎に敵前上陸したのである。古地図によると江戸時代前期に

屋島南方の馬場先に塩田がつくられていた。貞享5年(1688年)ごろには高松市福岡町に18haの古浜塩田ができ、宝暦5年(1755年)には屋島西南に23haの亥ノ浜、同6年には16haの子ノ浜、天保4年(1833年)には新浜26ha、同6年には柏納屋浜0.7ha、同13年には渦元新浜24ha、慶応2年(1866年)には高松市福岡町の新浜17.5haなどの塩田がつくられた。明治時代には久通塩田20ha、檀ノ浦新浜10ha、宮脇浜16.1ha、高松浜17.7ha、香西浜8.5ha、立石浜7ha、西渦元半学塩田16ha、木田塩田37ha、屋島浜16.3haなどがつくられている。大正7年(1918年)ごろからは塩田の廃止が相次ぎ、同15年(1926年)には高松火葬場付近の古浜、昭和4年(1929年)には詰田川東岸の農夫浜、5年には高古松浜、木太農夫浜、屋島南浜、庵治浜などが廃止されている。そして塩業革命後の現在ではすべての塩田が廃止されたのである。

小豆島でも古くから塩浜が開かれ、延宝7年(1679年)の検地によると池田村7町6反5畝14歩、土庄村17町3反8畝10歩、湊崎村2町7反14歩、草加部村16町3畝29歩など小豆島9村で塩浜反別57町9反7畝4歩であった。最盛期の天保年間(1830年ごろ)には150haの塩田が存在したというが、明治38年(1905年)には39ha、昭和26年(1951年)には16.4haに減少し現在は稼働している塩田がない。これらの旧塩田も5,000分の1あるいは10,000分の1の地形図上で判定できるものはすべて埋立地として表現した。また、天正16年(1588年)に生駒親正が旧香東川河口の八輪島付近を埋立てて高松城を築城して以来人工的に埋立てた地域、藩政時代の西浜漁港・東浜港・堀川港などの築港や明治以降の埋立事業などによる人工地も埋立地として示してある。最近のおもな埋立地を見ると高松市の香西地区で昭和36年から37年にかけて約5ha、弦打地区で40年～41年に約16ha、西浜地区で40年～43年に約12ha、41年～42年に約31ha、朝日町地区で27年から49年までに約150haが埋立てられている。

海岸を見ると岩石海岸には波食台が発達して海面下へ続くがこれは磯浜として示してある。小豆島東部の海岸では多量に採石したため人工の磯浜ができている所も少なくない。岩石海岸の岬と岬の間にある湾入には波の打ち上げた砂堆地形の浜堤が平滑な砂浜の海岸線を見せている。また、この浜堤の内側が河川の氾濫原となっている所も多い。土庄町南部の余島や内海町東部の城ヶ島などは砂浜で陸と続く陸繋島のように見えるが海岸を覆う堆積物は極めて薄く実は波食台で陸と連続しているのである。

(香川大学教育学部教授 高桑 紘)

## II 表層地質

### 1 表層地質概況

本図幅地域は、小豆島および豊島などの島嶼地域と高松北部の屋島および庵治半島を含む地域である。いずれも基盤は花崗岩であって、その大部分は領家花崗岩に属するものと思われる。また、小豆島の北半部には、生代白亜紀の中国型花崗岩が分布しているようである。

代表的岩石としては、粗粒ないし中粒の花崗閃緑岩或いは黒雲母花崗岩である。その外小岩体として、極めて細粒の黒雲母花崗岩及びやや後期の貫入と思われる閃緑岩などがある。更に本地域の特徴として、基盤岩の一員として、各地に Patch 状に変成古生層が分布していることである。これは変成粘板岩、雲母片岩又は縞状片麻岩および変成塩基性火山岩類などである。

更に豊島および小豆島の北西部には、上述の基盤岩類の上に、海成の第3紀層（中新統）が分布している。これは砂岩を主とする泥岩、シルト岩との互層で、時によると凝灰質のシルト岩が風化して、ベントナイト状になっており、多くの地すべり地がみられる。

この海成の中新統は、香川県ではここのみで他には分布していない。恐らく岡山市から津山市方面にかけて発達する新第3紀層に連続するものであろう。土庄層群とよばれている。この上に、更に不整合に各種の火山性岩石が分布しているのが、本地域の大略の地層層序である。

火山性岩石は、主として小豆島、豊島および屋島などの山地および丘陵性の台地に分布し、酸性凝灰岩、塩基性凝灰岩、集塊岩および各種火山岩となっている。

洪積層は割合分布が少く、最も発達しているのは豊島の北東部と庵治半島の基部である。

いずれも低位の段丘堆積物である。

冲積地堆積物は、各河川沿いのはんらん堆積物（砂礫）と海浜堆積物（砂）とからなっている。

### 2 表層地質各論

#### (1) 未固結堆積物（冲積世）

##### ア 砂礫がち堆積物（gs）

本図幅で砂礫がち堆積物としたのは、各河川のはんらん堆積物、各河川の上流の各支流谷における土石流堆積物および沖積錐堆積物とである。

#### イ 砂がち堆積物 (s)

砂がち堆積物は、臨海部に発達し、砂浜を形成しているものである。

#### ウ 泥がち堆積物 (m)

泥がち堆積物は、三角洲、浜堤の後背湿地部、昔の湾入部の湾中部に相当する部分に発達している。

#### エ 砕屑物 (cl)

山地および丘陵地の緩斜面には、火山性岩石および花崗岩の角礫よりなる崖錐が分布している。厚さは数m位である。花崗岩丘陵地の周辺の崖錐は粗砂質で、風化帯部と区別しにくい場合が多い。とくに小豆島の土庄町小馬越から馬越岡を通り屋形崎にかけて、集塊岩からの著しい崖錐が分布している。時によると、集塊岩との区別が困難な場合もある。

#### (2) 半固結堆積物 (洪積世)

本地域には、洪積層の発達が悪く点在しているにすぎない。2段識別し得る。

#### ア 礫および砂 (低位堆積物, $t_2$ )

豊島の北東部と庵治半島の基部に、台地を形成し分布している。いづれも砂礫質である。

#### イ 礫および砂 (高位堆積物 $t_1$ )

分布は極めて断片的で、小豆島の馬越峠付近に僅かに分布しているにすぎない。又古くから屋島礫層とよばれている砂礫層が屋島台地の三角点(292.5m)付近に分布している。

ここでは、層理の発達した粗粒砂層が、5m位のはんいで、3~5mの厚さで分布している。問題はあがるが、ここでは一応高位堆積物として取り扱う。

#### (3) 固結堆積物 (土庄層群, 第3紀中新世)

#### ア 砂岩がち砂岩・泥岩互層 (Sm)

この堆積層は、小豆島の北西部および豊島に分布する海成の第3紀層(中新統)で、土庄層群の名でよばれている。その層厚は50~100mで、花崗岩質砂と黄灰色の石英質の細粒砂岩と一部淡灰色~淡緑灰色のシルト岩とからなり、所により数枚の粗悪な褐炭層を含む。沢山の貝化石と植物化石を含む。土庄町長浜では、前述の石英砂岩が風



化して軟くなり、桂砂として採掘されたことがある。本層分布地域には、典型的な第3紀層地すべり地が多い。

#### (4) 火山性岩石（讃岐層群，第3紀中新世）

##### ア 玄武岩（B）

多石基質にして、後述の古銅輝石安山岩に、カンラン石の斑晶が大量に入り、玄武岩質となったもので、高松市男木島、女木島および小豆島の三都半島の白浜山に台地を形成し分布している。本岩には柱状節理が著しい。又極めて堅硬で、骨材としての利用度が高い。

##### イ 含角閃石斜方輝石安山岩（Ap）

漆黒色に近く、多斑晶質で、斑晶として斜長石、紫蘇輝石および少量の角閃石がみられる。小豆島の最高峰である星ヶ城山(816.7m)および美しの原高原(776.6m)に分布している。

##### ウ 古銅輝石安山岩（Ap<sub>1</sub>）

本地域のものは、典型的な讃岐岩（サヌカイト）ではなくて、いわゆる讃岐岩質安山岩に属するものである。屋島、豊島の檀山、小豆島の皇踏山に分布している。

斑晶としては、古銅輝石、単斜輝石、斜長石および角閃石、石基としては、ハリ、斜長石、古銅輝石、単斜輝石および磁鉄鉱がある。

一般に板状および柱状の節理が発達し、黒色ないしは緑灰色で、緻密で斑晶に乏しい。極めて堅硬で骨材としての利用度が高い。

##### エ 黒雲母安山岩（Ba）

本岩は小豆島の苗羽付近に塊状の小丘を構成し分布している。灰白色ないしは青灰色、多斑晶質である。斑晶としては、斜長石および黒雲母、石基としては、斜長石、黒雲母、磁鉄鉱、燐灰石および石英などがある。

##### オ 流紋岩（L）

本岩は小豆島内海町芦ノ浦付近に、小丘をなして分布している。一般に斑晶に乏しくハリ質である。所により松脂岩に近いものもある。斑晶として少量の石英および黒雲母、石基はガラス質で、石英および斜長石からなる。

##### カ 集塊岩（Ag）

本岩は小豆島の中央山塊（嶮岨山塊）、内海町の碁石山および牟礼町の五剣山を形成し分布している。とくに小豆島の中央山塊である寒霞渓付近に、その侵食地形が見

事な景勝地をつくっている。寒霞溪付近のものは、両輝石安山岩質であり、五剣山付近のものは含角閃石斜方輝石安山岩質である。

#### キ 凝灰岩および角礫凝灰岩 (BTb) (塩基性)

これは塩基性の角礫凝灰岩を主とするもので、かつて豊島石として採掘されたことがある。後述の白色酸性凝灰岩と共存する場合はなく、従って上下関係は不明である。直接基盤岩である花崗岩上に座し、各熔岩とくに塩基性の火山岩類の下位に分布することが多い。斜方輝石安山岩質のものが多い。豊島、屋島、女木島および男木島などで、讃岐岩質安山岩および玄武岩の下位に分布している。

#### ク 凝灰岩および凝灰角礫岩 (ATb) (酸性)

これは白色の酸性凝灰岩を主として、一部では凝灰角礫岩となっている。いづれの分布地においても、各種熔岩の下位に分布し、花崗岩上に直接座している。例外もある。屋島山上の屋島寺の境内に「雪の庭」とよばれる庭園があり、ここにこの凝灰岩が分布し、下位に讃岐岩質安山岩が発達している。また、八栗五剣山の源氏ヶ峯付近に、雨痕とよばれる豆状凝灰岩が分布している。この付近のものは、かつて「みがき粉」として採掘されたことがある。

流紋岩質および黒雲母安山岩質である。

### (5) 深成岩 (中生代)

#### ア 石英斑岩、文象斑岩、半花崗岩およびペグマタイト (Qp)

いづれも花崗岩中に小岩脈として存在するもので、時によると矽岩脈に伴い複岩脈を形成することがある。白色ないしは灰白色で、緻密で堅硬である。石基を構成する主成分鉱物として石英、正長石、斜長石および黒雲母で斑晶として少量の石英がある。

#### イ 玲岩 (Ph)

花崗岩を貫いて岩脈状に分布している。暗灰色ないしは暗緑灰色を呈し、一般に斑晶の目立つ硬い岩石である。斑晶は斜長石、普通角閃石および少量の黒雲母からなり角閃玲岩と称すべきものである。

#### ウ 閃緑岩 (Dr)

大部分は普通の閃緑岩 (斜長石、普通角閃石) で岩珠状に発達する。時によると黒雲母が混入し、黒雲母閃緑岩、更に石英が混入し、英雲閃緑岩と称すべきものもある。

#### エ 花崗岩類 (Gr)

本図幅全域の基盤を構成しているもので、大部分は領家花崗岩に属する。灰白色、

中粒ないしは粗粒の完晶質の基石で、その大部分は花崗閃緑岩又は黒雲母花崗岩である。風化が著しく、時によると相当深くマサ化している場合がある。小豆島の南半部の花崗岩に著しい。主成分鉱物：斜長石、石英、微斜長石、黒雲母および角閃石、副成分鉱物：燐灰石、ジルコン、磁鉄鉱、褐簾石など。

小豆島の北半部の花崗岩は、中生代白亜紀の中国型花崗岩で、石材として採掘されている。黒雲母花崗岩である。また、庵治半島の西岸の久通および丸山付近には、極めて特徴ある細粒の黒雲母花崗岩が分布し、庵治石の名で採掘されている。

#### (6) 変成岩（領家変成岩、古生代）

この岩類は、花崗岩中に、哺乳岩状に、小岩体をなして分布しているもので、古生層が熱変成作用によって変成された、いわゆる領家変成岩に属するものである。

##### ア 雲母片岩および片麻岩（Ms）

この岩類は高変成のもので、片状構造著しく、雲母類にとんだ黒色部と石英および長石にとんだ白色部とが密に互層している。一部では縞状片麻岩と称した方がよいものもある。

##### イ 変成粘板岩およびホルンフェルス（Mcl）

低変成のもので、黒色を呈し、極めて堅硬緻密にして、変質著しくホルンフェルスに属するものが多い。赤褐色黒雲母、石英、白雲母および緑簾石などの微晶がある。

##### ウ 変成塩基性火山岩類（Mv）

微粒～中粒で堅硬、節理にとみ帯青黒色～暗緑色で、主として斜長石、角閃石、黒雲母および輝石より変化した緑泥石よりなる。また、少量の緑簾石および磁鉄鉱をまじえる。

（香川大学農学部教授 齊藤 実）

## III 土 壤

### 1 山地・丘陵地の土壌

#### (1) 概 況

本地域の山地・丘陵地の土壌は、母材、堆積様式、断面形態等により3土壌群、6土壌統群に大別され、さらに8土壌統に細分された。

土壌群	土壌統群	土壌統
未熟土	残積性未熟土壌	1 統
褐色森林土	乾性褐色森林土壌	2 統
	褐色森林土壌	2 統
	乾性褐色森林土壌（黄褐色）	1 統
	褐色森林土壌（黄褐色）	1 統
赤黄色土	暗赤色土壌	1 統

## (2) 各 論

## ア 残積性未熟土壌

## (ア) 丸山統 (Mar)

強度の侵食を受けて、A層もしくはB層の一部まで欠除した受食土壌で、花崗岩を母材とする海岸近くの低山地に多く出現する。とくに井島では島の大部分がこの土壌で占められている。また、小豆島、庵治町八栗山などでは、山塊上部の安山岩類を母材とする地域の尾筋筋にもかなり出現する。一般にマツの疎林で生育は劣悪で、地表植生もきわめて貧弱である。

## イ 乾性褐色森林土壌

## (ア) 白峰山1統 (Sha 1)

花崗岩類の上部を覆う安山岩類および凝灰岩類を母材とし、山頂部および山腹斜面に広く分布する乾性土壌である。土層は一般に浅く、A層の形成は貧弱である。B層は有機物含量は少ないが、彩度の低い土色を呈するものが多い。小豆島四方指山地上部の平坦面の一部には、B層下部にやや暗赤色の土層をもつものが出現するが、とくに細分はせず本統に包含した。主としてアカマツ、クロマツの天然林であるが、生育は一般に不良である。しかし、小豆島の四方指山地、星ヶ城山地の緩斜面では、比較的土層が深く、ヒノキ造林地として利用されており、生育も中ようである。

## (イ) 広袖統 (Hio)

崖錐堆積物を母材とする土壌で、小豆島皇踏山地と四方指山地の一部および屋島山地の下部斜面に分布する。15cm前後のA層が形成されるが、B層は一般に堅密で角礫にすこぶる富み壤質である。マツおよび広葉樹の天然林となっているが、生育は一般によくはない。丸亀図幅の広袖統に相当する土壌であるが、本図幅では乾性褐色森林土壌に包括した。

## ウ 褐色森林土壌

## (ア) 白峰山2統 (Sha 2)

白峰山1統と同じ地域に分布するが、一般には谷底斜面の狭小な範囲に帯状に出現する。しかし、小豆島の四方指山地および星ヶ城山地では谷沿斜面から中腹斜面にわたって比較的広範囲に出現する。腐植の土層への侵入はやや良好で20cm前後の暗色のA層が形成される。B層にはぶい黄褐色を呈し、堆積は堅密でカベ状を呈す。一般にはマツ、広葉樹の天然林であるが、小豆島ではヒノキ造林地として利用され、生育は良好である。

## (イ) 白峰山3統 (Sha 3)

小豆島の四方指山地の谷沿緩斜面に分布する。白峰山2統とほぼ同様の断面形態をもつ土壌であるが、腐植の土層への侵入が2統よりもさらによく30cm余りのA層が形成される。この土壌は谷沿の比較的傾斜の緩やかな斜面に出現し、土壌は安定しており、土層も深い。この土壌はヒノキの人工林となっているが、生育は良好である。

白峰山2統とは水分環境の面では大きいちがいはみられないが、A層が厚く土層の深いものを3統として区分した。

## エ 乾性褐色森林土壌 (黄褐色)

## (ア) 国分寺1統 (Kob 1)

本図幅の花崗岩地帯に広く分布し、尾根筋および山腹斜面の大部分を占める乾性土壌である。A層の形成はきわめて薄いか、あるいは不明りょうなものが多い。B層は堅密でカベ状を呈し、深層風化を受けた花崗岩のC層に漸移する。土層は浅く細礫に富み、土壌は砂質である。この土壌は概して未熟土的な様相が強い。この土壌にはマツの天然林が多いが、生育はきわめて不良である。

## オ 褐色森林土壌 (黄褐色)

## (ア) 国分寺2統 (Kob 2)

国分寺1統と同じ地域に分布し、谷底斜面の狭小な範囲に出現する。国分寺1統よりも少し湿った水分環境にあるため有機物の分解はやや良好で、表層には腐植に汚染されたA層もしくはA-B層が薄く形成される。B層はカベ状を呈し、下層は花崗岩の深層風化を受けたマサ土様のC<sub>1</sub>層に漸移する。この土壌はマツおよび広葉樹の天然林が多いが、その生育は良好とはいえない。

## カ 暗赤色土壌

## (ア) 城山統 (Kiy)

この土壤は、安山岩類の熱水風化物に由来すると考えられる土壤で、小豆島の蛙子池および屋島台地頂部に出現する。暗色のA層が薄く形成されるが、B層は赤褐色を呈し全土層が壤質で堅密である。この土壤はマツの天然林となっているが、生育は不良である。  
(農林省林業試験場四国支場 井上輝一郎)

## 2 台地低地の土壤

## (1) 概 説

本地域の土壤は、その断面形態、母材、堆積様式によりつぎの4土壤群、10土壤統群に大別され、さらに16土壤統に細分された。

土壤群	土壤統群	土壤統
赤黄色土	黄色土壤	3 統
褐色低地土	細粒褐色低地土壤	1 統
	褐色低地土壤	1 統
	粗粒褐色低地土壤	1 統
灰色低地土	細粒灰色低地土壤	2 統
	灰色低地土壤	2 統
	粗粒灰色低地土壤	3 統
グライ土	細粒グライ土壤	1 統
	グライ土壤	1 統
	粗粒グライ土壤	1 統

## (2) 各 論

## ア 黄色土壤

これらの土壤は主として山麓斜面から下位台地にかけて出現する。腐植含量が低く暗色を呈しない。A層下に黄色の土層をもち、火山灰層、黒泥層、グライ層などが80cm以内に出現しない。本図幅内の山麓傾斜面から下位台地にかけて各地域に分布し、

山麓傾斜面は主に果樹園，台地は主に畑地として利用されている。生産性は中位～低位である。本土壤統群はつぎの3土壌統に細分される。

(ア) 香南統

この土壌は残積性の粘質な土壌である。土庄町の黒岩，大鐔，滝宮などかなり広範囲に分布しており，果樹園または普通畑として利用されている。

(イ) 讃岐統

この土壌は花崗岩を母材とする残積性または崩積性の壤質土壌である。土層が比較的厚く，礫に富んでいるが，礫層または岩盤は存在しない。本図幅内における山麓傾斜面または台地の各所に分布し，分布面積がもっとも多い土壌統である。果樹園または普通畑として利用されている。

(ウ) 青ノ山統

この土壌は山腹ないし山麓傾斜面に分布する礫質の土壌である。主として花崗岩を母材とするが，一部は安山岩に由来する地域もある。比較的浅い位置から礫層が出現する未熟な土壌である。土庄町の鹿島，中山，北山，硯，池田町の室生，内海町の岩谷，苗羽，坂手，泊，高松市の鶴市町の各地域に分布する。

イ 細粒褐色低位地土壌

これらの土壌は断面の主要土層が黄褐色を呈する粘質～強粘質土壌である。水田として利用されており，生産性は中位である。本土壤統に属する土壌統は常万統1統のみである。

(ア) 常万統

この土壌は作土下の主要土層が粘質であり，全層にわたって円礫を含んでいる。土庄町の北山から上庄へかけて分布する。

ウ 褐色低地土壌

これらの土壌は断面の主要土層が黄褐色を呈する壤質土壌で，下位台地，沖積地に分布し，水田として利用されている。生産性は中位である。本土壤統に属する土壌統は三川内統1統のみである。

(ア) 三川内統

この土壌は下層土にマンガン結核をもつ壤質土壌である。全層にわたって円礫または角礫を含んでいる。主に内海町の片城，牟礼町の勝仁，落合地域に分布するが，その他の地域にも点在する。

### エ 粗粒褐色低地土壌

これらの土壌は断面の全層または主要土層が黄褐色を呈する砂質または礫層が60cm以内から出現する排水過良な土壌である。水田として利用されているが生産性は低い。本土壌統群に属する土壌統は長崎統1統のみである。

#### (ア) 長崎統

この土壌は下層が黄褐色の砂質土壌である。表層からの鉄、マンガンの溶脱が顕著で、老朽化水田が多い。土庄町の小入部、池田町の奥中山、浜条、二面、内海町の安田、福田など各地域に少面積づつ分布する。

### オ 細粒灰色低地土壌

これらの土壌は沖積低地、谷底平野および下位台地に分布し、断面の全層または主要土層が灰色～灰褐色を呈する粘質～強粘質な土壌である。水田として利用されており、生産性は中位である。本土壌統群はつぎの2土壌統に細分される。

#### (ア) 宝田統

この土壌は断面の主要土層が灰色を呈し、マンガン結核をもつ粘質土壌である。高松市屋島東町および香西町の一部に分布する。

#### (イ) 多々良統

この土壌は断面の主要土層が灰褐色を呈し、マンガン結核をもつ粘質土壌である。土庄町の唐櫃、元目、馬越、庵治町の地頭名および北部海岸附近にそれぞれ分布する。

### カ 灰色低地土壌

これらの土壌は断面のほぼ全層が灰色～灰褐色を呈する壤質土壌である。海岸平野および下位台地に分布が多く、水田として利用されている。生産性は中位である。本土壌統群はつぎの2土壌統に細分される。

#### (ア) 清武統

この土壌は断面の主要土層が灰色を呈し、マンガン結核をもつ壤質土壌である。庵治町の松尾、馬治、牟礼町の川原、高松市の屋島中町、高松町の各地域に分布する。

#### (イ) 善通寺統

この土壌は断面の主要土層が灰褐色を呈し、マンガン結核をもつ壤質土壌であるが、80cm以下に粘質な土層または(砂)礫層が出現する場合もある。牟礼町の田井に分布する。

### キ 粗粒灰色低地土壌



これらの土壤は下層土の土性が砂質であるかまたは60cm以内より（砂）礫層の出現する土壤である。河川沿岸に分布が多く、水田として利用されている。透水性が佳良であり、鉄、珪酸、塩基が下層に溶脱されており、老朽化した土壤が多い。一般に生産性は低い。本土壤統群はつぎの3土壤統に細分される。

(ア) 豊中統

この土壤は表層下の主要土層が灰色の砂質土壤である。庵治町の西海岸、高松市の香西本町、郷東町の本津川沿岸にそれぞれ分布する。

(イ) 追子野木統

この土壤は30～60cmから砂礫層が出現する礫層土壤である。表層土は壤質であるが、透水性がよく作土下には斑鉄の集積層がみられ、マンガン結核が出現する機会が多い。高松市香西町の本津川下流の東沿岸に分布がみられる。

(ウ) 国領統

この土壤は30cm以内から砂礫層が出現する有効土層がきわめて浅い礫層土壤である。表層土は壤質であり円礫を含んでいる。高松市木太町、春日町の詰田川および新川の下流沿岸に分布する。

ク 細粒グライ土壤

これらの土壤は表層から少なくとも80cm以内に青灰色または緑灰色のグライ層をもつ粘質～強粘質土壤で、生産性は低い。本土壤統群に属するのは上兵庫統1統のみである。

(ア) 上兵庫統

下層にグライ層をもつ粘質土壤で、半湿ないし湿田である。酸化沈積物を含む機会が多い。池田町の蒲野に少面積分布する。

ケ グライ土壤

これらの土壤は表層から80cm以内に青灰色のグライ層をもつ壤質土壤で、生産性は低い。本土壤統群に属する土壤統は新山統1統のみである。

(ア) 新山統

この土壤は作土直下が灰色土壤であるが、30～50cm以内からグライ層が出現する土壤である。高松市の屋島西町および屋島東町の一部、志度町の小田湾沿岸、土庄町の家浦、唐櫃浦、目島の各地域に点在する。

コ 粗粒グライ土壤

この土壤は下層土の土性が砂質であるか、または60cm以内から砂質または砂礫層が出現するグライ土壤で、生産性は低い。本土壤統群に属するのは八幡統1統のみである。

(ア) 八幡統

この土壤は下層土が砂質のグライ土壤である。地下水位は高いが水もちはむしろ悪く、鉄、マンガンの溶脱が著しい。志度町鴨庄の鴨部川沿岸、池田町の蒲生、平木の各地域に分布する。

(香川県農業試験場 真鍋武夫、大熊正寛)

#### IV 傾斜区分

傾斜区分は地表の傾斜が40°以上、30°以上40°未満、20°以上30°未満、15°以上20°未満、8°以上15°未満、3°以上8°未満、3°未満の7段階に分級し、これを等高線の間隔による定規を使って区分した。

40°以上の急傾斜地は屋島溶岩台地の山頂平坦面の周辺、五剣山の山頂部、女木島南西部、皇踏山溶岩台地の山頂平坦面の周辺部南側、伝法川南方にある大麻山の山頂に近い北西および南東斜面、池田町と内海町の境にある段山の山腹、碁石山の山頂部、寒霞溪付近から星ヶ城山の南側山腹にかけての一带、大部港へそそぐ桂川の中流部沿岸の山腹、吉田川や森庄川中下流沿岸の山腹、当浜川上流の水源地付近、岩谷北部の山頂付近などにまとまった分布がある。また、屋島北部、庵治半島とその付近にある島々の周辺、小串崎や大串崎付近、女木島の北岸と西岸、男木島の西岸、小豆島の三都半島西岸、内海町の東岸などの岩石海岸では海食崖が40°以上の急傾斜面を示している。

30°以上40°未満の地域は屋島の中腹、五剣山北側から女体山へかけての一带、源氏ヶ峰の北部と南部、遠見山から竜王山にかけての山頂部、女木島の南部と洞窟付近、男木島北部、直島東部、柏島の大部分、井島の中部と南部、豊島南部一帯と蛇山中腹、小豊島中部、大深山と高見山付近一帯、皇踏山山腹、大麻山や段山の山腹、白浜山の南側斜面、池田町から内海町にかけての山地の山腹斜面、土庄町北東部の橘川や桂川・東川などの沿岸にある山地や銚子溪付近の山地などに広く分布している。

20°以上30°未満の地域は女体山北側斜面、五剣山の南西部と北東部の斜面、遠見山や竜王山の周縁部、大串半島、井島中部、豊島の檀山周辺、大深山南部と東麓、池田町の飛岬付近から三都半島にかけての山麓部、内海町の飯神山付近、別当川西岸の山腹、苗羽・芦浦から瀬戸にかけての山麓部、田浦付近、千羽ヶ嶽の北部、安田付近の山腹、星ヶ城山南側と北側斜面の一部などにまとまった分布があるほか各地の山腹斜面に散在している。

15°以上20°未満の地域は屋島山麓、源氏ヶ峰の山頂付近、庵治半島各地の山麓部石清尾山西斜面、女木島の中部と北部、男木島南部、豊島の檀山山頂から北斜面へかけてと檀山の山麓部、小豆島では大麻山の山頂と南麓部、伝法川上流沿岸、小江付近、日島付近、池田町北部にある段山の山頂部、寒霞溪の南側斜面、美しの原周辺の山腹斜面、星ヶ城山・三笠山の北斜面、吉田川の上流沿岸などにまとまった分布がある。

8°以上15°未満の地域は屋島や庵治半島の山麓部、馬ヶ鼻南方の半島部、女木島北部、豊島の檀山山頂とその北東斜面、大深山北麓、皇踏山の山頂部と南麓、土庄町北西部にある上位台地・山麓地の一帯、池田町北東部の段山山頂部と南麓、寒霞溪南麓、苗羽付近、美しの原付近一帯、小豆島ゴルフ場付近、星ヶ城山や三笠山の山頂部、吉田川上流の平間付近などに分布する。

3°以上8°未満の地域は屋島周辺の山麓地、五剣山南西麓の下位台地、庵治半島の山麓部や大島・女木島・直島などにある低地、豊島の上位台地の一部や海岸に近い低地、小豆島周辺の湾頭にある低地、土庄町北西部の上位台地の各所、皇踏山や三都半島の段山の山頂部、池田町の岡条付近、内海湾へそそぐ諸河川中流部沿岸などに散在している。

3°未満の緩傾斜の地域は高松平野の臨海部に広く、また相引川や牟礼川の沿岸、庵治半島の長者川沿岸、志度町の鴨部川沿岸、小田湾頭、豊島の春日川沿岸、土庄港付近、伝法川沿岸、池田湾・内海湾へ流入する諸河川の沿岸、橘川・桂川・東川などの下流部沿岸などにある低地一帯に分布している。

(香川大学教育学部教授 高桑 紘)

## V 水系・谷密度

高松平野西部は旧香東川の氾濫原であり、この川は石清尾山の東西両側に分流していたが17世紀の初期に西島八兵衛によって現在の河道に固定された。御坊川や詰田川は旧香東川の名残川である。春日川と新川はもとの同一の河系であったが高松市東山崎町付近で人工的に分流された形跡がある。本津川・香東川・春日川・新川などは天井川であり各河川の間に分水界を引くことはできない。また、相引川は海面を埋立てた名残りの人工の河川である。

屋島半島には谷が発達せず川らしい川はない。庵治半島の主要分水界は著しく東部に偏り東側斜面には長大な谷がなく、西側斜面には庵治町に長者川・南長者川、牟礼町で牟礼川が五剣山を主水源地として流出している。志度町では鴨部川の下流部が低い天井川を成している。

女木島・男木島・柏島・直島・井島・小豊島その他の小島には川はほとんど見られない。豊島西部には春田川が家浦の低地を流れ、東部には春田川が唐櫃漁港付近へ流入する。

小豆島の主要河川は星ヶ城山から美しの原へ続く山頂部を中心として放射状に流出している。西流する伝法川が最も長大で、北流するものには土庄町北東部の橘川・桂川・東川、東流するものには内海町東部の吉田川・森庄川・当浜川・城石川・橘川、南流して内海湾に流入する河川には別当川・片城川・安田大川などがある。また、南西流して池田湾へそそぐ河川には池田大川・豊栄川・競川などがあり、大深半島では大深山を中心に桂川・千軒川・柳川・畝木川などが放射状に流れている。

谷密度は水系図に5万分の1地形図の各辺を40等分した方眼をかけ、各方眼の周辺を切る水系の数を読み、4区画ずつ合計して区分した。

谷密度の低い地域は高松平野その他の比較的大きな河川の下流沿岸の低地、屋島・女木島・男木島・豊島の檀山・小豆島の皇踏山・白浜山・段山および美しの原から星ヶ城山へかけての山頂部のように讃岐岩質安山岩や玄武岩・輝石安山岩などの溶岩が山頂部にある山地、土庄町北西部の上位台地・山麓地などである。

谷密度の高い地域は各山地の中腹部、とくに庵治半島南部の五剣山から源氏ヶ峰付近、井島中部、豊島西部、大深山付近、池田町東部の段山の南西および南東の山腹

斜面，片城川・安田大川の上流部沿岸など花崗岩類の卓越する山地に顕著に見られる。  
 （香川大学教育学部教授 高桑 紘）

## VI 防 災

防災図には大雨時の湛水・冠水地域，地すべり防止地域，山崩れ地点，砂防指定地，砂防堰堤工，流路工，重要水防区域，河床勾配の遷移点，おもな観測所や水門の位置などを図示してある。

この地域は昭和21年12月21日の南海地震による地盤沈下以後大雨の際に湛水する範囲が拡大している。また，高松市街付近における最大の地盤沈下に地下水の過剰揚水の影響があると判断されるので早急に地下水のくみ上げ規制が望ましい。高松港における平均潮位は年により昇降を繰り返しながらしだいに上昇しており，昭和39年に191.5 cmであったが，48年には198.8 cmを示している。

昭和47年9月16日の台風20号による豪雨は13日から17日までに高松气象台で251.0 mm，とくに16日に192.0 mm，時間雨量の最大が34 mmの降水をもたらした。高松平野では広い範囲が浸水したが，市街地付近でも本津川や香東川の下流沿岸から石清尾山北方の西浜町・幸町・宮脇町・北浜町，さらに松福町・多賀町・築地町・花園町・栗林町から木太町・新田町・屋島本町・屋島西町などが浸水して交通は各所で途絶した。宮脇町や屋島競技場付近では床上浸水している。木田郡庵治町では長者川下流沿岸やその北方の一带，牟礼町では牟礼川沿岸などが浸水した。

小豆島では昭和49年7月6日に台風8号の湿舌が内海町上空付近に発達し，同町北部の太陽の丘では日降水量373 mm，21時～22時の時間雨量92 mmに達する豪雨をもたらした。土庄町の土木事務所では日降水量52.0 mm，池田町の農業試験所では同144.8 mmであった。このときの被害は死者29人，家屋全壊51戸，半壊203戸，床上浸水1,671戸，床下浸水1,094戸に達した。山腹斜面が崩壊し谷に土石流が走り下流部の集落に甚大な被害を与えたのである。とくに内海町安田の橘地区では全壊20戸，死者19人を生じた。床上浸水の多かったのは苗羽の馬木地区301戸，安田の植松地区217戸，草壁の片城地区113戸などである。

地すべりで最も著しいものは土庄町の伝法川中流北岸にある肥土山地区で県下最大

の地すべり地域である。第三紀層を覆う集塊岩質の麓層面が約 100 年間にわたってすべっている。最近では昭和40年夏から42年の春にかけて大規模な地すべりが起り、被害農家は 120 戸を数えたが、崩壊部の切り取り、排水溝や擁壁の整備、民家の移転などの対策が進められ現在では安定している。また、土庄町北西部の上位台地・山麓地一帯も地すべり防止指定地である。

地すべり・山崩れは小豆島にとくに多いが、その位置・標高・面積・崩壊方向などは表に示してある。

(香川大学教育学部教授 高桑 糺)

## 地 す べ り

番 号	位 置	標 高(m)	面 積(ha)	崩壊方向
1	小豆郡土庄町豊島 硯	70	31.0	北
2	〃 〃 豊島 家浦	70	2.0	南
3	〃 〃 豊島 唐櫃	70	1.0	北 西
4	〃 〃 〃	70	2.0	北
5	〃 〃 小江, 長浜	80	105.5	西
6	〃 〃 馬越, 屋形崎	100	167.4	北
7	〃 〃 肥土山	100	53.8	南
8	〃 池田町吉田	70	2.0	南

## 山 崩 れ (市町別)

番 号	位 置	標 高(m)	面 積(ha)	崩壊方向
<b>高 松 市</b>				
1	女木町西浦南西方	100	0.2	北 西
2	屋島東町屋島寺南東方	250	0.4	東北東
<b>木田郡庵治町</b>				
1	王の下	30	3.0	南
2	遠見山西斜面	120	0.3	西南西
3	〃	120	0.2	南 西
<b>木田郡牟礼町</b>				
1	女体山西斜面	80	0.15	西
<b>小豆郡土庄町</b>				
1	豊島家浦南方	80	0.2	北
2	〃 檀山南斜面	220	1.2	南
3	〃 〃 西斜面	280	1.5	西
4	小豊島南斜面	60	0.4	南
5	柳北西方	60	0.8	南
6	千軒北北西	40	0.2	南
7	小瀬東方	100	0.7	南
8	畝木西南西	50	0.2	北

番 号	位 置	標 高(m)	面 積(ha)	崩壊方向
9	皇踏山西斜面	200	0.5	西
10	伊喜末南方	100	0.4	西
11	〃 南東方	100	0.3	西
12	渦江南方	80	0.1	北 西
13	北山北東方	90	0.4	西
14	上庄北東方	120	0.5	北 西
15	小海南方	100	0.5	北 西
16	〃	100	0.9	北
17	〃 南東方	240	0.8	北 西
18	〃 北方	50	0.6	北 西
19	美しの原北西方	550	0.5	北
20	琴塚南方	70	0.2	北
21	田井南東方	80	0.4	北
22	美しの原北方	580	0.3	北
23	大部南東方	180	0.9	北 西
24	寒霞溪北方	350	0.3	北 西
25	大部東南東	200	1.3	北北西
26	千鳥ヶ浜南方	200	1.0	北北東
27	小部南方	350	0.9	北
28	〃	350	0.9	北 東
29	〃	450	1.2	北
30	〃 南南東	350	0.5	北 西
31	三笠山北斜面	670	1.0	北 東
32	小部南方	200	1.0	北 西
33	〃 東方	70	0.5	西
34	灘山南方	200	1.2	北
35	三笠山西斜面	550	0.7	北 西
36	〃	600	0.1	北 西
<b>小豆郡池田町</b>				
1	入部北方	60	0.1	南
2	大麻山西斜面	150	0.3	南 西
3	〃 南斜面	150	0.3	南 西



番 号	位 置	標 高(m)	面 積(ha)	崩壊方向
4	岡条北方	170	0.7	南
5	奥中山西南西	200	0.3	北
6	〃 南方	200	0.4	北 西
7	〃 東方	420	0.2	南
8	〃	400	0.5	南
9	新中山池東方	450	0.6	北 西
10	〃 南方	360	0.4	北
11	〃 西方	400	0.3	北
12	奥中山南方	400	0.7	西
13	〃	200	0.3	南
14	開拓南西方	250	0.4	南 西
15	〃	150	0.8	西
16	丸山北東方	150	0.4	南 西
17	石場西方	80	0.3	南 東
18	牛ヶ浦西方	100	0.4	南 東
19	飯神山南斜面	150	0.5	南 東
20	長崎西北西	60	0.4	東
21	蒲野南東方	50	0.5	南 東
22	目見ヶ谷北東方	50	0.7	東
23	白浜山南東斜面	80	1.3	南 東
24	〃 西斜面	50	0.2	西
25	段山西斜面	150	0.3	北 西
26	〃	140	0.4	西
27	〃 北斜面	100	0.8	北
28	二面南西方	80	0.3	北 西
29	飯神山北西方	70	0.4	南 西
<b>小豆郡内海町</b>				
1	藤崎西方	30	0.5	北北東
2	〃 南方	30	0.6	東南東
3	吉田北東方	80	0.2	南 東
4	〃 西方	100	0.8	南 東
5	〃 南南西	80	0.2	北

番 号	位 置	標 高(m)	面 積(ha)	崩壊方向
6	金ヶ崎西南西	30	0.4	南
7	吉田東南東	50	0.2	南 東
8	福田北方	100	0.4	南
9	平間南西方	260	0.5	北 東
10	福田西方	200	0.3	東
11	〃 南西方	200	1.5	北 東
12	〃 南方	50	0.3	北 東
13	〃	90	0.5	東
14	小豆島ゴルフ場西方	300	0.2	北 西
15	〃	250	0.2	北 西
16	福田南西方	100	0.5	北北東
17	小島北岸	10	0.1	北
18	当浜北方	100	0.7	東
19 <sup>A</sup> <sub>B</sub>	〃	100 80	0.25 0.25	南 北
20	〃 西方	160	0.3	東
21	〃 南方	80	0.3	東
22	〃	80	0.5	東南東
23	岩谷北東方	30	0.1	南 東
24	〃	80	0.7	南 東
25	〃 北方	100	0.5	南 東
26	〃	100	0.3	南
27	〃 北西方	250	0.2	東南東
28	星ヶ城山南斜面	650	0.9	南南東
29	岩谷西方	240	0.4	北 東
30	〃	160	0.5	東
31	千羽ヶ嶽東斜面	210	2.5	東
32	南風台北方	50	0.4	東
33	橋東方	70	0.2	南
34	千羽ヶ嶽南斜面	160	0.7	南 東
35	〃	150	0.4	南 東
36	橋南方	60	0.1	東
37	〃	60	0.3	東
38	〃	50	0.5	東

番 号	位 置	標 高(m)	面 積(ha)	崩壊方向
39	橘峠東方	100	0.3	北 東
40	"	50	0.2	北 東
41	"	50	0.5	北北東
42	" 南東方	80	0.5	東
43	北谷北東方	50	0.7	東
44	" 南南西	50	0.6	東
45	徳本南西方	100	0.3	南 東
46	大泊東方	160	0.7	南南東
47	" 北西方	200	1.0	南 東
48	" 南西方	80	0.1	東南東
49	" 南方	40	0.4	東
50	"	40	0.7	東北東
51	風ノ子島北岸	20	0.1	北 東
52	" 南岸	30	0.3	南 西
53	大角鼻北北東	20	0.2	南 東
54	" 北西	20	1.3	南 西
55	瀬戸	100	0.1	西南西
56	坂手北東方	120	0.2	南南西
57	堀越南西方	100	0.1	東
58	田浦東方	50	0.1	西
59	苗羽東方	100	0.2	西
60	苗羽	10	1.0	北北東
61	馬木東方	60	0.1	西
62	橘峠南南東	160	0.4	北北東
63	" 北北西	180	0.5	南南西
64	"	180	0.5	南
65	" 北西方	100	0.3	南
66	安田北東方	40	0.1	南
67	馬木	10	0.1	西
68	安田北方	60	0.2	南 西
69	"	160	0.3	西
70	"	150	0.3	南 西
71	"	250	0.2	西

番 号	位 置	標 高(m)	面 積(ha)	崩壊方向
72	安田北方	310	0.3	南
73	〃	200	0.4	南
74	〃	100	0.3	南南東
75	〃	80	0.2	南南東
76	本庄北方	100	1.7	南
77	小坪南方	20	0.2	西
78	小坪	70	0.2	南 東
79	〃 北方	240	2.5	南 西
80	上村北方	120	0.4	南 西
81	〃	150	0.3	南
82	〃 北西方	240	0.2	南 東
83	〃 西北西	250	0.2	東
84	〃 西方	170	0.5	東南東
85	上村	80	0.1	南
86	神懸通西方	100	0.4	南 東
87	〃	130	0.3	東
88	草壁	20	0.6	南
89	原北方	180	0.5	南

## VII 開 発 規 則

開発規制区には国立公園，都市公園，保安林，鳥獣保護区，国有林，海岸保全区域，史跡・名勝・天然記念物，埋蔵文化財，市街化区域などを示してある。

この地域には昭和9年に設置された瀬戸内海国立公園が広く分布しており，屋島溶岩台地の大部分をはじめ，五剣山山頂部，庵治半島の沿岸各地とその付近にある大島，高島などの島々，大串半島の大部分，女木島・男木島・柏島・向島・家島・井島・小豊島などの全域，葛島や千振島・余島など小豆島周辺の小島，直島南東部，豊島の西部と南東部，小豆島の皇踏山山頂部，高壺山南麓，白浜山の大部分，碁石山から大角鼻にかけての一带と内海町の東海岸各地，銚子溪から美しの原・寒霞溪・星ヶ城山をへて東川と吉田川の間にある山地一帯などが含まれている。

都市公園としては昭和30年に高松市が設置した高松城址の玉藻公園があり、都市計画法による緑地帯となっているが、その他の狭小な都市公園は省略した。

保安林は土砂流出防備、土砂崩壊防止保安林が志度町の日盛山付近、豊島西部の丘頂部や唐櫃浜南方の山麓地、小豆島では大深山の山頂部、皇踏山南西斜面、内海町北東部の福田付近の山地などに分布している。魚つき保安林は庵治半島各地と兜島・鎧島・稲毛島・高島など、志度町の伯父ヶ浦付近や大串半島、女木島南西部、柏島全域、豊島の南端その他の岬の部分、小豊島の西端、池田湾の飛岬付近、三都半島の長者鼻や崩鼻付近など、内海町では弁天島付近、風ノ子島・城ヶ島・小島など周辺の島々や各地の海岸などに分布している。

風致保安林は屋島の大部分、寒霞渓付近一帯、銚子溪西部などに存在する。

鳥獣保護区は高松市の石清尾山一帯の国有林がその範囲である。

国有林は石清尾山のほか屋島の大部分、庵治半島の沿岸部各地、小豆島の美しの原北斜面や三笠山北方などにまとまった分布がある。

海岸保全区域は全域にわたって広く各所に設定されているが、農林・運輸・建設の関係各省別に示した。

特別天然記念物には土庄町湊崎にある宝生院のシンパク（真柏）、天然記念物には高松市の屋島、池田町二面の誓願寺のソテツ、同町神の浦の皇子神社の社叢がある、県指定天然記念物は屋島塩田のアツケシソウ群落をはじめ土庄町で銚子溪の日本サル群・浄源坊のウバメガシ・片山愛樹園のソテツ・王子神社社叢があり、内海町に老杉洞の日本サル群・福田八幡神社社叢・内海八幡神社社叢がある。また、名勝は寒霞渓である神懸山が大正12年に指定されている。その他各地に石器・土器の出土地や散布地、古墳などが広く散在しており、史跡・名勝・天然記念物と共にその種別・名称・位置を表示した。

市街化区域には高松市市街地から屋島南麓へかけて、さらに牟礼町の五剣山南麓一帯および志度湾に臨む海岸地域が含まれている。

(香川大学教育学部教授 高桑 紘)

史跡・名勝・天然記念物・遺跡などの表

番号	種 別	名 称	所 在 地
1	古墓	香西氏墓所	高松市香西本町
2	銅銚出土地	下ノ山遺跡	〃 西浜町下ノ山
3	古墳群	石清尾山古墳群	〃 峯山町石清尾山
4	古墓	生駒親正の墓	〃 錦町
5	城跡	高松城跡	〃 玉藻町
6	天然記念物	屋島塩田の アツケンソウ群落	〃 屋島西町
7	古墳	長崎鼻古墳	〃 〃 長崎鼻
8	史跡、天然記念物	屋島	〃 屋島東町、屋島中町、屋島西町
9	古墳（前方後円墳）	浜北古墳	〃 屋島西町浜北
10	古墳（円墳）	屋島中央東古墳	〃 〃 中央字谷東
11	古墳（円墳）	屋島中央西古墳	〃 〃 〃
12	銅鐸出土地	丸山遺跡	木田郡庵治町丸山
13	古墳（円墳）	円山古墳	〃 〃 〃
14	古墳	山椒山古墳	〃 牟礼町牟礼字宗時
15	古墳（円墳）	浦山古墳	〃 〃 〃
16	古墳	庵山古墳	〃 〃 牟礼字落合
17	古墳（円墳）	四つ塚古墳	〃 〃 牟礼字宗時
18	古墳	向井山古墳	〃 〃 牟礼字勝任
19	城跡	田井城跡	〃 〃 牟礼字田井
20	銅鐸出土地	野田場遺跡 1	〃 〃 源氏ヶ峰
21	散布地（弥生式土器）	野田場遺跡 2	〃 〃 〃
22	古墳	駒押越古墳	〃 〃 大町字金山
23	散布地（石器）	宮ノ上遺跡	高松市女木町与ノ浜字宮の上
24	古墳	丸山古墳	〃 〃 与ノ浜
25	古墳	鷺ヶ峰古墳	〃 〃 牛カケ
26	貝塚	鷺ヶ峰貝塚	〃 〃 〃
27	古墳	中戸古墳	〃 〃 中戸

番号	種 別	名 称	所 在 地
28	古墳	城ヶ鼻古墳	高松市男木町殿田
29	古墳	御山古墳	〃 〃 大井
30	古墳	墓咲古墳	〃 〃 〃
31	古墳	荒神古墳	〃 〃 殿田
32	古墳	玉姫古墳	〃 〃 〃
33	古墳	太田尾古墳	〃 〃 太田尾
34	古墳	猫ノ鼻古墳	香川郡直島町向島字猫ノ鼻
35	散布地(石器, 師楽式土器)	アババ遺跡	〃 〃 〃
36	散布地(石器)	大福浦遺跡	〃 〃 向島字大福浦
37	古墳群	ナカ鼻古墳群	〃 〃 井島字ナカ鼻
38	散布地(師楽式土器)	鞍掛浜遺跡	〃 〃 〃
39	散布地(石器)	鞍掛浜遺跡	〃 〃 井島字鞍掛鼻
40	散布地(石器, 土器)	横引遺跡	小豆郡土庄町豊島横引浜
41	散布地(縄文式土器, 須恵器)	柚遺跡	〃 〃 豊島家浦字柚
42	散布地(縄文式土器 弥生式土器)	神子ヶ浜遺跡	〃 〃 豊島家浦字神子ヶ浜
43	古墳	白崎古墳	〃 〃 豊島家浦字白崎
44	古墳	唐川古墳	〃 〃 豊島家浦字小港
45	散布地(弥生式土器)	豊島檀山遺跡	〃 〃 豊島檀山
46	天然記念物	片山愛樹園のソテツ	〃 〃 洲崎
47	散布地	甲生御殿山遺跡	〃 〃 豊島御殿山
48	貝塚	だびがす貝塚	〃 〃 豊島唐櫃字札田
49	散布地(弥生式土器, 石器)	浜田遺跡	〃 〃 豊島唐櫃字浜田
50	古墳	爾靈山古墳	〃 〃 〃
51	散布地(サヌカイト石層)	アアラ遺跡	〃 〃 土庄アアラ島
52	貝塚	小豊島貝塚	〃 〃 伊喜末字小豊島西山
53	散布地(縄文式土器 弥生式土器)	小豊島遺跡	〃 〃 伊喜末字小豊島入道浦積
54	散布地(ブレイド サヌカイト片)	戸形遺跡	〃 〃 小瀬戸形小山
55	丁場跡	大阪城石垣 石切小瀬原丁場跡	〃 〃 小海

番号	種 別	名 称	所 在 地
56	丁場跡	大阪城石垣 石切千軒丁場跡	小豆郡土庄町千軒
57	散布地(弥生式土器)	猪ノ見山遺跡	" " 土庄猪見山
58	散布地(石器)	葛島遺跡	" " 伊喜末字葛島
59	古墳	燕崎神鏡塚古墳	" " 小江
60	貝塚	長浜貝塚	" " 長浜字内浜
61	散布地(縄文式土器)	伊喜末遺跡	" " 伊喜末字中島
62	城跡	皇踏山城跡	" " 湖崎皇踏山
63	散布地(土器破片, 須恵器)	尾崎遺跡	" " 笠ヶ滝字尾崎
64	散布地(弥生式土器)	西山遺跡	" " 馬越字西山
65	住居跡	下川遺跡	" " 小馬越字下川
66	散布地(弥生式土器)	柴遺跡	" " 小馬越字柴
67	散布地(弥生式土器)	上浦遺跡	" " 黒岩
68	天然記念物	浄源坊のウバメガシ	" " 湖崎
69	特別天然記念物	宝生院のシンパク	" " "
70	貝塚	双子浦貝塚	" " "
71	古墳	与九郎山古墳	" " 湖崎与九郎山
72	古墳(円墳)	富丘古墳	" " "
73	経塚	富丘経塚	" " "
74	古墳群	高つば古墳群	" " "
75	古墳群	富丘古墳群	" 池回町浦生字入部
76	散布地(師楽式, 弥生式)	入部遺跡	" " "
77	散布地(師楽式, 弥生式)	浦生遺跡	" " 浦生字角田
78	散布地(師楽式土器)	西風呂遺跡	" " 浦生字西風呂
79	古墳	池ノ坊古墳	" " 池ノ坊
80	散布地(須恵器)	北地遺跡	" " 池田字北地
81	古墳(円墳)	本堂山古墳	" " "
82	散布地(弥生式, 師楽式)	山風呂遺跡	" " 上地
83	散布地(弥生式, 師楽式)	信谷遺跡	" " 池田字信谷



番号	種 別	名 称	所 在 地
84	散布地 (弥生式, 師樂式)	浜条遺跡	小豆郡池田町池田字浜条
85	古墳	城山古墳	" " 池田字前山
86	古墳	妙見山古墳	" " 二面
87	天然記念物	誓願寺のソテツ	" " "
88	天然記念物	皇子神社社叢	" " 神の浦
89	築城残石	石場築城残石	" " 二生字石場波止
90	散布地 (弥生式土器)	丸山遺跡	" " 室生字丸山
91	天然記念物	内海八幡神社社叢	" 内海町苗羽
92	古墳	弁天島古墳	" " 苗羽弁天島
93	古墳群	亀ノ尾古墳群	" " 芦ノ浦亀ノ岬
94	散布地 (弥生式, 人骨, 須恵器)	徳本遺跡	" " 坂手
95	銅鐸, 銅剣出土地	牛飼場遺跡	" " 安田字草壁
96	窯跡	釘ヶ谷窯跡	" " 安田釘ヶ谷
97	名勝	神懸山 (寒霞溪)	" "
98	天然記念物	老杉洞の日本サル群	" "
99	城跡	星ヶ城跡	" " 安田字草壁
100	屋敷跡	大阪城用残石 番屋七兵衛屋敷跡	" " 安田字岩谷
101	築城残石	岩谷築城残石	" " "
102	天然記念物	福田八幡神社社叢	" " 福田
103	散布地 (弥生式土器)	平間遺跡	" " 福田字平間
104	散布地	灘山遺跡	" 土庄町灘山西
105	散布地 (師樂式, 弥生式)	小部浜遺跡	" " 小部字浜東坪
106	散布地 (須恵器, 弥生式)	琴塚浜遺跡	" " 琴塚字浜畑
107	天然記念物	王子神社社叢	" " 小海
108	古墳	城山遺跡	" " 小海字新石
109	築城残石	小海築城残石	" " 小海字城山波止場
110	天然記念物	銚子溪の日本サル群	" "
111	古墳	見目浜古墳	" " 見明中の滝

1975年3月 印刷発行  
小豆島観光開発地域  
土地分類基本調査

## 高松，草壁，西大寺，寒霞溪

編集発行 香 川 県 企 画 部  
高松市番町四丁目1番10号  
印 刷 (地図)内外地図株式会社  
東京都千代田区神田小川町3-22  
(説明書)株式会社 多田印刷所  
高松市八坂町1番地7